

令和8年度 第2回 佐久間中学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和8年6月9日(火) 14時20分から16時50分まで
- 2 開催場所 佐久間中学校 会議室
- 3 出席委員 守下 武志、奥山 和子、月花 明生、村田 しのぶ、澤村 晃央、
片倉 美咲
- 4 欠席委員 向坂 美保
- 5 オブザーバー 高氏 秀佳(前運営協議会委員長)、笹野 訓子(前運営協議会委員)、
鈴木 孝(佐久間支所地域振興グループ長)、
- 6 学 校 廣岡 誠司(校長)、鈴木 政晴(教頭)、森下 奏恵(教務主任)
- 7 傍 聴 者 0人
- 8 会議録作成者 CSディレクター 新聞千代子
- 9 議長 の 選 出

司会の教頭から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、各委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。

10 会議記録

委員総数7名のうち5名の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。

(途中参加があり、開始時は5名、終了時は6名)

11 前回会議の確認(教頭)

別途資料に基づき、教頭より説明があった。

12 熟 議

(1) 生徒の学習活動への取り組みについて

○「自律的な学び」に向けた探究活動の今後の方向性(教頭)

○ 2月実施の市内一斉実態調査結果を受けて(教頭)

別途資料に基づき教頭より説明があった。

- ・ 今回は事前に生徒一人一人のテーマや内容を知らせてもらったので、準備や心づもりができた。それぞれのグループにどういった情報を提供したらよいのか調べる時間ができ参加しやすかった。前回の反省が生かされていると思う。(奥山委員)
- ・ 自分の中学生時代を振り返って考えると、学校が家庭学習のやり方について指導されるということはなかった。どういうことをすればよいかを自分で決めるのは難しいが、生徒の探究心を支えるためにも学校側で教えることはよい。(澤村委員)
- ・ 「給食の時間が楽しい」と思えない子が多いことについては、移動が大変かもしれないが1年生から3年生まで学年を交えて昼食をとったら楽しいのではないか。(澤村委員)

- ・ 宿題を主体的に勉強することと総合的な学びは関係している。(守下委員長)
- ・ 宿題を主体的にやらせるということは、理想と現実があってなかなか難しい。苦手な部分を認識し「よしやるぞ」と頑張るのが一番伸びるのだが、現実には苦手なところを自らやろうとする子供はそれほど多くはない。子供の励みになるような先生側の工夫が何かあるとよい。(守下委員長)
- ・ 今日の探究活動でいえば子供たちは自分でテーマを決めてよく頑張っている。(守下委員長)
- ・ 質問ですが、今の「家庭学習」というのは「宿題」ですか、それとも「自主勉強」のどちらなのでしょう。(月花委員)
 - 現在は「宿題」と呼ばず「家庭学習」と呼んでいる。教師が与えるものでなく、自分に必要な「自主勉強」という意味合いの方が近い。(教頭)
 - 「家庭学習」というと自ら進んでやっているように感じる。私の家庭では親から「やれよ」とは言っていない。何かわからないことがあれば子供が聞いてくることに答えるようにしているが、他の保護者の方にも状況を聞きたい。(月花委員)
 - ドリルなど買ったりしているが、親も子も何を買ってよいのかわからない。自分に合ったものが見つけだせなくて易しいものを選んでしまう傾向にある。ドリルの選び方等を先生に聞いてみたい。(村田委員)
- ・ 子供たちに力をつけたいので学校だけでなく、家庭学習もやらせたい。学力は大切だという思いがある中で、平日の読書時間が0の生徒が多いのが気になる。もう少し何とかなるとよいと思う。(高氏オブザーバー)
 - タブレットの導入など学校でやらなければならないことが多く、中学校では読書の時間を削らざるをえない学校が多い。(教頭)
 - 読書をする 것과主体的に学ぶということはつながっている。(守下会長)
- ・ 人口減少や高齢化といったマイナスイメージばかり考えてしまうが、中学生の「佐久間の良いところを知ってもらいたい」「知りたい」という前向きな姿勢がうれしく感じると同時に、佐久間の行政に携わる者として反省もした。(鈴木オブザーバー)
- ・ 3年間かけてテーマを絞って自分が探究したいところを「形」にできるとよいと思う。(笹野オブザーバー)
- ・ この地域の子供たちは必ずしも自我を出すタイプの子供たちではないように思う。子供たちが自主的にすることは大変なこと。自分の課題をとらえることを大人が励まし、認めてあげることが大切。学校運営協議会ははじめ地域も協力したい。(笹野オブザーバー)
- ・ 読書量を増やすために、探究活動で興味を持っている分野の本を選び、読書感想文につなげていくような方法もあるのではないか。(笹野オブザーバー)

- ・ この活動に参加するようになって、今の中学生が自分で探究する行為自体に驚きを感じる。先生方の日常の指導は大変だろうといつも感じている。(新聞CSディレクター)
→ 生徒は探究活動の中で「こうしたい」という思いはあっても「実現できそうにない」と思ってしまうところがある。今日の活動で地域の方が「これならできるかも」と答えてくれるのはありがたい。生徒は達成感を感じていると思う。(森下教務主任)
- ・ 参考になったことがいくつかあった。職員でも共有して今後の教育活動に取り入れられることを検討していきたい。(教頭)

(2) 教職員の業務量管理について(教頭)

教頭より、別途資料に基づき説明、報告があった。

- ・ 19ある見直し項目について、地域学校協働活動(今日の支援活動)の関係者間の連絡調整について、教員の負担が非常に大きい。来年度ご協力いただけるかどうか。(教頭)
→ 地域の人材を選定し事前に活動内容を説明、調整連絡等を協議会委員で分担して支援できそうか。(守下会長)
→ 観光協会など、自分に関係する方なら可能。人材が偏らないよう、重ならないように調整が必要。(笹野オブザーバー)
→ 今までの内容と流れを把握した上で、足りない分野の人材補充はできるのではないか。(奥山委員)
→ 来年度5月ごろの依頼として検討し協力しましょう。(守下会長)

13 報告(教頭)

○ 休日部活動の地域展開について進捗状況 報告

はまクル認定クラブについて、別紙資料に基づき教頭より説明があった。

14 連絡(教頭)

○ 運動場クリーンアップ作戦について

別紙資料に基づき教頭より説明があった。

○ 次回、学校運営協議会日程について

令和8年10月22日(木) 14:30~16:00(含授業参観)